

【薬学部生命創薬科学科】

卒業認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

本学科に4年以上在学し、「先端医療を支える高度な知識と技能を備えた医薬分子の創造に携わる研究者の育成」という、本学科の教育目標に沿って編成された授業科目を履修し、次のような能力を身に付けた上で、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（薬科学）の学位を授与する。

1. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力。
2. 医薬品の創製に携わる者としての高い倫理観と使命感。
3. 医薬品の創製に関する研究を遂行するために必要となる基礎的な学力および技術に加えて、その上に立つ創薬科学、生命薬学に関する専門知識。
4. 最先端の医療や科学に関する知識を積極的に取り入れ、問題解決に向けた適切な方法を立案し、実践していくための能力。
5. 研究者として必要となるコミュニケーション能力ならびにプレゼンテーション能力に加えて、国際的な視野をもって医薬品の創製や人類の健康維持に携わる研究者・技術者として、広く社会に貢献する意欲。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

1. 生命科学に関する高度な専門知識と技術を基盤として、医薬品の創製を実現することを通じて、基礎研究の成果を臨床・公衆衛生に活かすことのできる能力を備え、人類の健康と福祉に貢献しうる優れた研究者・技術者を育成するための学士の教育課程を編成する。
2. 様々な疾病に対して高い有効性を示す医薬品の創製、体内動態、作用機構に関する講義・演習・実習を幅広く実施するとともに、これらの研究を早期から展開することを通じて、総合ライフサイエンスとしての薬学を追究することにより、先端医療を支える高度な知識と技能を備えた創薬研究者・技術者を育成するための教育を実践する。
3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、創薬に係る化学、生物、物理の基礎を学ぶ「基礎科目」と、創薬科学と生命薬学を中心として、これに環境・衛生薬学、医療薬学を加えた幅広い専門知識の修得と問題解決能力の涵養を図るための「専門科目」を体系的に配置する。
4. 「一般教養科目」では、自然科学・人文科学・社会科学の各分野を広く俯瞰した上で、人命を最大限に尊重することのできる、倫理観、及び豊かな人間性を育むことを目的とした人間科学分野の教育を展開するとともに、グローバルに活躍しうる人材となるための語学力・コミュニケーション能力を身に付けることを目的とした教育を実施する。
5. 英語教育においては、少人数クラスや習熟度別クラスを取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
6. 「基礎科目」では、創薬科学と生命薬学を中心として、これに環境・衛生薬学、医療薬学を加えた幅広い学問領域のいずれにも共通した基礎薬学に関する知識と技能を修得するための授業科目を効果的に配置した上、さらに「専門科目」との接続性にも配慮した教育を展開する。「専門科目」との接続性にも配慮した教育を展開する。
7. 「専門科目」では、講義科目に加えて、多くの演習、実習等の関連科目を効果的に組み合わせることにより、創薬に関する知識と技能を深化させ、総合的な学問としての薬学を探究していくための態度を身に付けることを通じて、問題解決能力、倫理観、及び豊かな人間性の育成を図る。
8. 「一般教養科目」「基礎科目」「専門科目」では、創薬科学・生命薬学の各専門分野に応じたキャリア教育、倫理観を養う内容を含む科目を配置し、各科目においては、講義、演習、実験、実習、スモールグループディスカッション（SGD）、PBL等の多様な教育方法を用いて授業を実施する。
9. 学士課程の集大成を図るとともに、大学院修士課程において実施されるより高度な研究との接続性にも配慮した卒業研究科目を配置する。
10. 学修成果の評価にあたっては、筆記試験、レポート、口頭試験、実技試験等の多様な方法を用いて、各科目で定められた到達目標の達成状況を総合的に評価する。
11. 薬学という専門分野を超えて、関心のある知識を幅広く修得できるよう、他学部・他学科において開講されている科目を履修しうる制度を設けることにより、幅広い視野をもって新しい分野へ挑戦するための学習ニーズに応える教育課程とする。

入学者受入れの方針[アドミッション・ポリシー]

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育理念のもと、

1. 高等学校までの学習内容を十分理解し、人類の健康を守ることを通じて社会に貢献しようとする志を備え、専門分野の学習に必要な学力を持つ人。

2. 自立心旺盛で勉学と研究意欲に溢れ、先端医療を支える薬学研究者として将来わが国のみならず、国際的に活躍するための素養を身に付けている人。
3. 自らの考えを表現する力を備え、創薬に携わる研究者・技術者のみならず、医療に携わる様々な人々と協働して学ぶ意欲のある人。

を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式 (4 教科型) 入学試験)

幅広い教科・科目に対する基礎知識と思考力、判断力をもつ人を、大学入学共通テスト (4 教科) の得点を用いて選抜する。

(A 方式 (3 教科型) 入学試験)

学部の特性に見合う教科・科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テスト (3 教科) の得点を用いて選抜する。

(A 方式 (2 教科+英語資格検定) 入学試験)

学科の特性に見合う教科・科目に対する基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語を活用する能力を持つ人を、大学入学共通テスト (2 教科) の得点と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力をもつ人を、独自の学力試験 (数学、英語、化学) の得点を用いて選抜する。

(学校推薦型選抜 (指定校制))

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人で本学を第 1 志望とする人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

(総合型選抜 (英語資格検定+特定教科評価))

本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲と国際的な視野を持つ本学を第 1 志望とする人を、書類審査、英語の資格・検定試験の成績、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

(帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験)

学問に対する姿勢や考え方、海外で身に付けた能力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、資格・検定試験の成績、小論文、面接等により選抜する。